

Saka-yell

暮らし、栄える、好きになる

=第四号=

=特集=

いにしえ

古 と今、和と洋の華麗なる融合

- ・古民家胡座イタリアン
- ・ヒシミツ



詩あわせサンチエ
住まいる！サカエポイント☆
お手軽・ハンドメイド
Saka-yell 情報局
・Saka-yell なび
旧伊藤伝右衛門邸
サカエ住宅的・快適生活

一歩踏み入ればそこは異世界
心落ち着く大人な和モダン

【古民家胡座イタリアン】

古民家が海を渡る!? 重要文化財がお引越し

行橋市の主要道路である旧国道沿いに、一際目立つ大きな古民家。まるでお寺のような急勾配の瓦屋根は、一見してレストランのそれとは見えない。はためく幟の「イタリアン」の文字が、まるで少し得意顔をしているかのよう。その「意外性」を主張している。敷居を跨ぐとすぐ、立派な梁と合掌造りの屋根裏が見える吹き抜けに目を奪われる。なんと築四百三十五年になるというこの古民家は、かつて江戸時代に石川県輪島市に建てられた。当時蚕の養殖場として使われていたこの建物は、それから永きに渡り様々な人々の暮らしを支えた。

しを支えた。

しかし時代とともに、次第に住む人も居なくなり廃墟となったこの「家」は、昭和の時代が終わる頃には取り壊しの対象となってしまう。その時点で既に築四百年を超えていたこの建物は、その貴重さから県の重要文化財候補にもなっていたほど。そんな歴史ある建物を取り壊してしまうのはさすがにもつたないかと、縁あって行橋市に住むある人物に引き取られ、この「家」はここへやってきた。

遠く石川県から、行橋市へ。「解体移築」という、一度壊した建材を船便で運び、再度建て直す作業が行われたのだ。四百三十五歳になるこの古民家は、三十年前にいわゆる「引っ越し」を経験して今、ここに居る。

そのめくもりに心奪われる 誰もが好きになる、 そんな場所

そのような経歴を持つ家はなかなか存在しない。もちろん、経歴だけでなくその造りや雰囲気も、古さゆえさすがにインパクトがある。初めて店を訪れたお客様は、ほとんどの方がその「古民家ぶり」に興味を持ち、店内を見回してはため息混じりに唸るほど。「お店の中を探検したい」と仰る方も多く、そういった要望にはスタッフが丁寧に店内を案内してくれる。

——「スタッフもみんな、この建物が大好きなんですよ。」

店長の増田和俊さんが笑顔で話す。大好きなこの「家」を、お客様に知ってほしい。いや、むしろ「自慢したい」に近いのかもしれない。だからこそ、探検の案内にも熱が入る

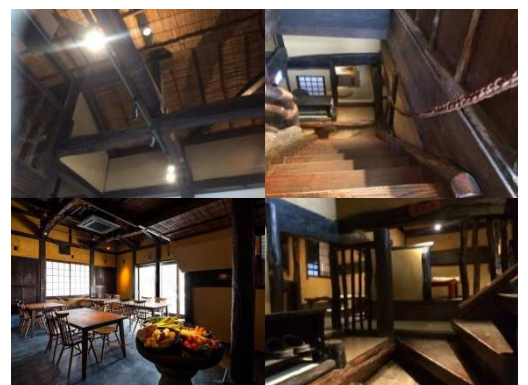
今回は、イタリアン特集というつもりもなかったのですが、古民家を題材にしたらなぜかイタリアン？に。イタリアと言えば、地中海に面する温暖で過ごしやすそうなイメージ、それとジロ・デ・イタリアで有名な自動車王国。フェラーリ、ランボルギーニ、アルファロメオなど性能もさることながら、その非常に美しい姿に感動します。建築屋とは、合理的であり複雑そうでシンプル、それでいて美しいフォルムをいつも追い求めています。

お店の建物の前身は、石川県輪島市で建てられ、それから四百三十五年の時を超えて、今でも凛としている建物です。これが日本の建築「加工性の良い木材や竹、紙で作出す匠の技」の素晴らしさと感動しました。

元々は蚕の養殖所だったらしく高い吹き抜け部分や小屋裏の黒光りする丸太、特筆すべきは煤けた竹。現在では、薬品でわざと煤竹を作っている有様で、一本いくらかと考えると考えてしまいました。なかなか



小屋裏の席は煤けた竹を丁寧に使った、匠の技がいっぱいです。



当時の階段としてはゆるやかで手摺の縄も相まって上りやすく親切な設計！！

大断面の梁はお目に係れません。玄関の入母屋屋根は、バランスよく感じました。間口に対する軒の出、千鳥破風でも起り破風でもなく、野地勾配と化粧勾配の取り合いがうまく、入母屋の立ちどころが丁度よくて、新しく伏せた瓦屋さんもさぞ楽しく工事が出来たことだろうと思います。

片側の柱や欄間、長押などたぶんあったとは思いますが、気にならない程です。階段も思いのほかゆるく登れそうで、手摺の編まれた縄がいいですね。

そして離れ座敷に水屋らしきものを発見。お茶でも一服いかがですか？

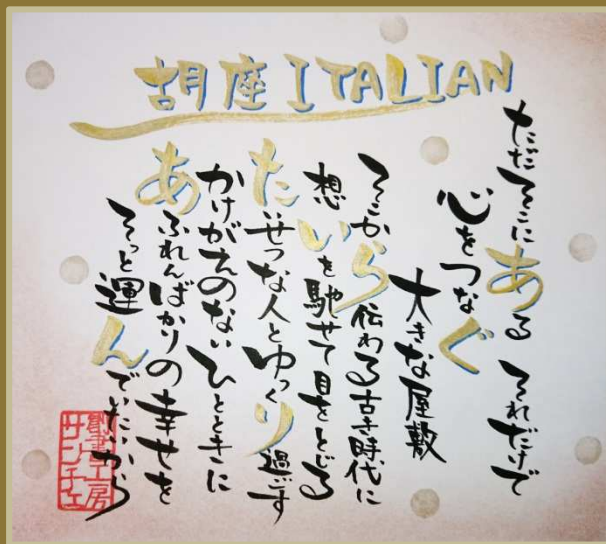
Meravghosol

(文 伊藤)

住まい！
サカエポイント★

詩あわせサンチエ ~Happy Sanche~

築400年を超えるその古民家は、ただそれだけでとてつもない存在感を放っていました。店内の雰囲気に圧倒されつつも、どこか懐かしいそのあたたかさが心地良く、店長の増田さんをはじめ、スタッフの方々の仲の良さにも表れていると感じました。落ち着いた雰囲気の店内は、大切な人と大切な時間をゆっくりと過ごすのにまさに最適であり、そこで感じられる幸せこそが、最高の贅沢であることを表現しました。



店長の増田和俊さん。
気さくな人柄で、
店舗もスタッフもとても
大切に思っていることが
伝わってくる。

のだ。自分たちが働いているこの場所は、こんなにも素敵なのだ。

「胡座」はオープンして三年が経つ。お店の立ち上げとして重要な「店長」のポストを任された増田さんは、その時初めて行橋市を担当した。小倉の店舗で十三年間店長を務めたのち、ここ行橋へやって来た時はその土地

心もお腹も満たされる 提供するのは、最高の癒し

気取らずに、我が家のように寛いで、ゆっくりと料理を味わってほしい。そのコンセプトは「お箸で食べるイタリアン」。

日本ならではのこの雰囲気で、美味し

柄の違いから不安も多くあったという。だが今、増田さんは「この店が大好きだ」と力強く語る。建物の雰囲気はもちろん、スタッフたちの人柄も、お客様のあたたかさ。そのすべてに魅了され、三年経った今、他の店舗へ移動することが寂しいとさえ感じてしまふ、と。

歴史ある木のぬくもりは、きつと人の心もあたたかくほぐし、繋げてくれるのではないだろうか。



大人の雰囲気漂う、シックでレトロな一階(左)と茅葺き屋根で、優しい雰囲気の離れの個室(右)

(文・サンチエ)

い料理をリラックスして頂く、まさに最高の贅沢である。

ランチでは、ステーキセット、生パスタランチが各1,944円、ハンバーグセットは1,620円。また、ステーキとハンバーグのコンビセットは2,376円と、こだわりの逸品がリーズナブルな値段で食べられる。

夜はお酒と単品料理となり、要予約でコース料理も可能(3,240円コース、4,320円コース、5,400円コース有)。

最大四十名まで収容でき、送迎バスも完備で、まさに至れり尽くせりである。

あの大きな古民家で。築四百三十五年の建物で。海を渡った住宅で。大切なあの人と、ゆっくりと向き合って食事をしよう。歴史ある木のぬくもりに触れて、きつとあなたの心も、しつとりと落ち着くに違いない。

古くて、大人で、カッコイイ。そんな不思議な空間が今、時空を超えてここに存在する

古民家胡座イタリアン

住 所

福岡県行橋市北泉 4-39-1

営業時間

Lunch 11:30~15:00

Dinner(月~金) 18:00~22:00

Dinner(土日祝) 17:00~22:00

休 日

なし

電 話

0930-55-6627

H P

<http://www.agura-yukuhashi.info/>



入口正面、大迫力の梁と吹き抜け。多くのお客様がまずここで目を見張る。

『行橋ステーキ』
『大人ハンバーグ』
『もちもち生パスタ』
建物の珍しさだけじゃない！
料理も唸るほどの美味しさ。



150年続いた醤油蔵 生まれ変わったのは、孫娘



【ヒシミツ】

慣れ親しんだ実家の蔵 人生を変えた祖父の置き土産

「ヒシミツ」という、一見変わった名前。店を訪れると、その由来はすぐにわかる。店内の至る所に見受けられる、菱形のマークに「光」の文字が入ったレトロなロゴは、その昔「菱光醤油」として百五十年続いた醤油蔵の称号を当時のデザインのまま使っているという。

オーナーの中村有美子さんは、この大きな醤油蔵で生まれ育った。料理の道に進み、地元を離れ、神戸という離れた場所で結婚、出産をし、飲食店を経営しながら忙しくも充実した毎日を過ごしていた。そんなある日、添

田町の実家から届いたのは「菱光醤油」を営んでいた先代、祖父の訃報だった――

先代の他界により、百五十年間続いてきた「菱光醤油」は閉業せざるを得なくなった。九十七歳まで現役で醤油造っていたというお祖父さんは、神戸にいる有美子さんによく電話をしてきてはいつも「はやく帰って来てこの醤油蔵を継ぎなさい」と言っていた。既に神戸で飲食店を経営していた有美子さんは、もちろん醤油造りを継げるなんてはずもなく、閉業も仕方ないことだと思つたという。けれど、幼い頃からそこにあるのが当たり前だった醤油蔵が、いざ無くなつてしまふと考えると、なんとも寂しく、そして悔しい気持ちが入り込んできた。祖父は、菱光醤油がなくなることをきつと望んではいない。このまま途絶えさせてはいけないのではないか。そんな想いに駆られた有美子さんは、どうにかこの醤油蔵を残して、活かすことが出来ないだろうか考えた。自分には、料理しかない。ならばこの醤油蔵を、飲食店にすることは不可能だろうか？

積み重ねてきた

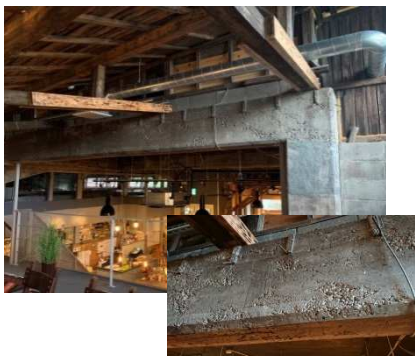
歴史をそのままに

懐かしくも、新しい空間を

その実現には様々なハードルが立ち上がった。製造業として作られたこの建物は、飲食店としての基準を満たすには難しく、いくつもの厳しい審査をクリアする必要がある。また有美子さんのご両親も、娘を心配する気持ちから「ヒシミツ」の開業には反対した。せつかく神戸で基盤が出来ているのに、新たにリスクを負わなくてもいいのでは、

『ヒシミツ』というお店。名前からして思いつくのは「武田菱」若しくは「三菱」なんて考えながら、弊社から山間を車で走る事十分ほど、閑静な街並みが見えてきました。武家屋敷の佇まい。どこか違う……、思いついたのは添田と言えは英彦山(日本三大修験山の一つ)。最盛期には数千の僧兵が居て、大名に匹敵する程だったそう。お目当てのお店に到着、酒蔵と思いきや醤油蔵。どちらかというと三菱「商売」の方だったかと、ほくそ笑みつつ入店。

まず目についたのは「樽」。樽は作るのが大変です。板と板を短ぎあわせるために一枚一枚鉋で削り合わせるのは至難の業です。よく「水に触れることで木材が膨張するので大丈夫。引つきますよ」と軽くいう人も居ますが、漏水間違いなし、後で大変なことになります。今では平滑に削れる機械がありますが、以前は仕事に合わせて鉋で「特別に長い台」「そりのついた台」等、いろんな道具を作っていました。建物ですが「鉄筋コンクリート」「木造」「組積造」で出来ていて面白いです。現行の建築基準法を通すのに苦労されたと思



当時の最新の技術で作られたコンクリート壁。現在では再現できない気泡や木目がとても良い味わいです。



「鉄筋コンクリート」「木造」「組積造」
色々な顔を魅せる天井は必見！

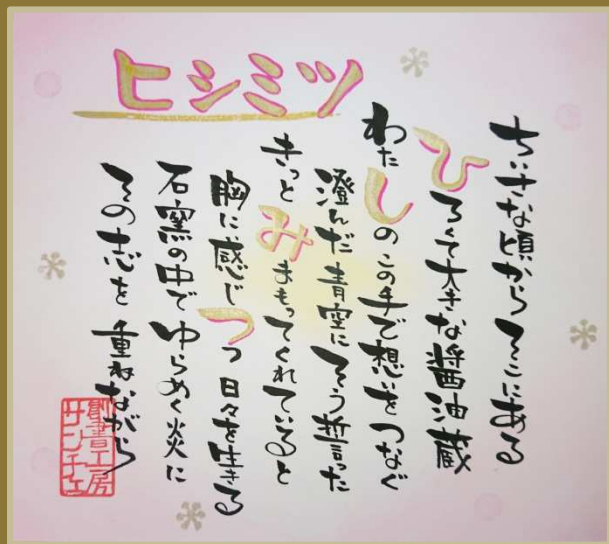
見えるかの世界は非常にいい反面、いろんな問題が発生しています。昔ながらのもつと安全側に少し大きめに配慮した建物はどうしてもしつかり作られているようです。異国情緒あふれる洒落たデザインに Benissimo！

(文・伊藤)

住まる！
サカエポイント★

詩あわせサンチ ~Happy Sanche~

子供の頃からここで育ち、あるのが当たり前だった醤油蔵。まさかこんな形で自分が受け継ぐとは夢にも思わなかったと語る有美子さんの、「何としてもこの蔵を残したい」という誠実な想いを強く感じました。今でもどこかでお祖父さんがきっと見ているからと、初心を忘れずにしっかりとこの場所を守っていくその確固たる決意を、ご主人と築いた新しい家族の象徴として、手作りのピザ窯の炎でぬくもりと共に表現しました。



都会でもないこの町で、古びた醤油蔵跡地に飲食店など果たして成功するのか、と。それらすべての問題をひとつずつクリアし、満を持して「ヒシミツ」はオープンした。「菱光醤油」の閉業から七年。長く険しい準備期間を経て、由緒ある醤油蔵が、お洒落なイタリアンレストランへと生まれ変わったのだ。昭和初期の建物だったという醤油蔵は、店内の至る所にその趣を残している。当時としては珍しい鉄筋コンクリート造りが、その型枠の跡から時代を物語る。「出来るだけ壊さずに、そのままの状態を活かす」をモットーに造られた「ヒシミツ」の建物は、よくある古民家カフェとはひと味もふた味も違う。古い鉄筋コンクリートと木造、そして現代の新鮮さが融合した独特の雰囲気となっている。一階奥に展示してある醤油樽は、当時使

自然、未来、地域、子ども。

先代に恥じない まっすぐな想い

現在有美子さんは、神戸の店舗とを行き来しながらも、拠点はここ添田町に置いている。というのも、自身が生まれ育ったこの土地で子育てがしたいという思いが根底にあったからだ。緑豊かな自然に囲まれたこの町で、現在三歳になるお子さんは保育園に通っているという。かつての有美子さんがそうだったように、地域の温かさに見守られながらこの「ヒシミツ」を、温かい「おうち」として



ランチコースはピザの食べ放題
(税込：1,836円)
地元農家さんの野菜をふんだんに使った自慢のピザは評判↑！

て、毎日笑顔で帰ってくるのだという。

「ヒシミツ」には、かつて「菱光醤油」だった頃を知るお客様も多く訪れる。「昔はこの蔵でよくかくれんぼしてたのよ」と仰るご年配のお客様が、当時のかくれんぼ仲間と変わらないメンバーでランチに来られるというのだから、長く地域から愛されていることがよくわかる。

こんな風に、今の子供たちが大人になった時、その思い出の中に「ヒシミツ」がまた残ってくれたらどんなに嬉しいだろう。そう考える有美子さんは、もともと食育に興味があったこともあり、今後は「ピザ造りのワークショップ」など、子供と一緒に体験できるプランなども考えているという。タイ尔職人であるご主人お手製のピザ窯で、子供たちと新しい歴史を作っていく。家族代々受け継がれてきた「菱光醤油」は、「ヒシミツ」に形を変えても尚、家族として、地域の象徴として、愛されながら未来を創っていくだ



オーナーの中村有美子さん。
可愛い笑顔がとても印象的

ヒシミツ

住所

福岡県田川郡添田町添田 1999

営業時間

Lunch 11:00~14:30

Café 15:00~18:00

休日

不定休

電話番号

0947-31-4192

HP

<https://www.instagram.com/hisimitu>

_1999



当時、醤油と一緒に作られていたソース瓶を使ったシャンデリア。可愛いその姿はインスタ映え必須！

(文：サンチエ)

例えイタリアンレストランになろうとも、その志は先代のそれと変わらない。想いをしっかりと受け継いだ「四代目」が、これからこの地でどんな物語を創っていくのか。きつとこの空の上で。先代たちも楽しみに見守っていることだろう。

ろう。働き者で厳格だった祖父だから、今でもどこから私を見ているかもしれないと言う有美子さん。この地で蔵を残したとは言え、醤油造りを途絶えさせたことに変わりはない。そのことを胸に、先代たちに恥じないよううにありたいと、まっすぐに語る。この取材の日、有美子さんから頂いた名刺には、その覚悟がこうして書いてあった。

「四代目当主 中村有美子」

お手軽・ハンドメイド

今号のテーマ **針も糸も使わない！基本の万能リボン**

講師: 築山麻衣子さん

ハンドメイド雑貨と言えばアクセサリ。でも、アクセサリを作るなんて難しいんじゃない？
材料費も高そう…。そんなことはありません。ぶきっちゃんでも作れる可愛いリボンを作って、
オリジナルのアクセサリにチャレンジしよう！今回は、「**基本の万能リボン**」の作り方をご紹介します！

＝材料＝

- 好きな柄のリボン(綿 100%は不可)
25 cm×2 本、20 cm 1 本、
5 cm 1 本(結び目用)
- ラッピング用ワイヤー •ライター
- 強力両面テープ •グルーガン
- ハサミ
- ものさし

(100円均一
ですべて揃い
ます。)



- ①リボンの端をライターで軽く炙る。
(ほつれ防止のため)
※リボンの素材は綿 100% NG!
(燃えます)
ポリエステルが入った素材を選ぼう。
おススメは、固さのあるグログラン
リボンです。



- ②25 cmと 20 cmのリボンの端(裏側)に両
面テープを付け、円を作りくっ付ける。
この時、両面テ
ープの接着面を半
分残しておく。



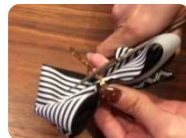
- ③両面テープ部分を
真下にし、25 cmのリ
ボンは軽く左右をね
じりながら中心部を
②で残しておいた接
着面に固定する。20
cmのリボンはねじら
ずにまっすぐ固定す
る。



- ④真ん中に両面テ
ープを付け、③で作
ったリボンを重ね
て固定する。



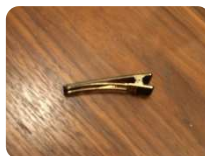
- ⑤中心部をきれい
に折ってつまみ、ラ
ッピング用ワイヤ
ーでしっかりと結
ぶ。
ワイヤーの結び
目はねじって固定
し、5 ミリほど残し
て切り裏側で折り
曲げておく。



- ⑥ 5 cmのリボンを
両面テープで好きな
幅に折り曲げたら、
端に付けた両面テ
ープで裏側からくっ
付け、巻き終わりが裏
側になるように長さ
を調節してから両面
テープで留める。
仕上げに引っ張っ
て形を整えよう。



- ⑦これで基本のリボンは完成。
あとは好きな金具にグルーガンで
くっ付けるだけ
で、パレットにも
ブローチにもな
る。結び目のリボ
ンにチェーンを通
せばバッグチャ
ームにも！



- 基本を押さえておけば、ねじり方や重
ね方で色々アレンジ可の万能リボン。
針も糸も使わずに、工作感覚で簡単に
作ることができる。
あなたはリボンで、どんなアクセサ
リを作る？



<作成指導・講師紹介> ハンドメイド作家 mon ange(モナンジュ)代表 築山麻衣子さん

北九州、京築地区を中心にハンドメイド作家として活躍中。九州電力(株)行橋営業所にて
毎月開催されているアクセサリ講座では講師も務める。

得意とするレジンアクセサリは、本物のフルーツや生花を使用。フルオーダーメイドにも
対応可。4児の母であり、その全員が女の子で、ヘアゴムなどのアクセサリがたくさ
ん必要だったことがハンドメイド作家となるきっかけであった。

その名の通り、mon ange とは仏語で「私の天使」という意味である。

築山さんの作品はここからチェック！→





* Saka-yell なび *

Saka-yell 編集部がオススメする色々な事を
毎号ピックアップして掲載する Saka-yell なび！

今月は筑豊が誇る旧家
「旧伊藤伝右衛門邸」を
ピックアップさせていただきます。

伊藤伝右衛門。少しでも歴史や文学に詳しい方なら聞いたことがあると思います。筑豊の町で炭坑王として名をはせ、のちの歌人柳原白蓮の夫だった人物。

その彼が若き妻の白蓮のために建てた家。それがまさにこの旧伊藤伝右衛門邸です。



本邸は伝右衛門が、日本建築の粋を集め、大正時代中期から昭和初期にかけて自身の本邸として改築したものです。

敷地面積約2,300坪という敷地に日本庭園を有して、4つの棟と3つの土蔵からなる、まるで御殿のような豪華さを放っています。なお、門は福岡市天神の赤銅御殿から移築しています。

部屋数25という広大な邸内は、すべての部屋が細部にまでこだわって建築されており、和洋折衷で華麗で贅を尽くした屋敷に仕上げられております。

特に白蓮の居室(2階)は、日本庭園を一望できる見晴らしの良い部屋で、銀箔で作られた押入れや水上泰生が描いた蝶をあしらった天袋など様々な意匠がこらされており、妻の歓心を得るため



の細工さえあったとされるほど、豪華絢爛な造りとなっています。

このように素晴らしい建造物であるこの屋敷も、彼の死後に売却され、その数年前には取り壊しなどの方針も検討

されておりました。

しかし、文化遺産として存続を求める署名運動などによって飯塚市に譲渡が決まります。その後、1年余りの補修を経て、一般公開されることになりました。



波乱万丈な彼らの人生とともにあった旧伊藤伝右衛門邸。その豪華絢爛で当時の匠の技をぜひともご覧いただけたらと思います。

—いづか雛のまつり—

平成31年2月2日(土)～3月26日(火)

旧伊藤伝右衛門邸では毎年テーマを変え500体から800体の座敷雛を飾ります。2019年の旧伊藤伝右衛門邸は「雛がおりなす雅な平安絵巻」を展示して皆様をお迎えします。また、土曜日、日曜日、祝日は子どもから大人まで誰でもお雛様、お内裏様になれ、十二単衣と束帯姿で写真撮影ができる「お雛様変身コーナー」を設置しています。



※お雛様変身コーナーは土曜日、日曜日、祝日は有料(300円)になります。平日は無料ですがセルフで着用となります。

旧伊藤伝右衛門邸

住所 福岡県飯塚市幸袋 300
入館料 大人 300円 小・中学生 100円
開演時間 9:30～17:00 (入館は16:30分まで)
休館日 水曜日 (祝日は開館)
12月29日～1月3日
電話 0948-22-9700
HP <http://www.kankou-iizuka.jp/denemon/>

<お知らせ>

「ブラモンの頑張るモン!!」は前号をもちまして休載させていただきます。ご愛読頂き、誠にありがとうございました。

注文住宅を建てるという事

その参：面積の話(二)

前回から引き続きまして、面積の話になります。今回は各面積の広さに対しての説明でした。

今回は、そこから少しだけ進みまして土地に建物を建てられる範囲のお話になります。

敷地にどれだけの建築面積の家を建てられるか、どれだけの延べ面積の広さの家を建てられるかの基準の「建ぺい率」と「容積率」についてお話しします。

『建ぺい率』は敷地面積における建築面積の割合で、制限が特定行政庁の都市計画で定められています。

建ぺい率とは、敷地内にスペースを確保することで快適な生活空間を維持し、さらに防災時の安全を確保することが目的になります。その為、建てる場所や条件によって変わってきます。

『容積率』は敷地面積における延べ面積の割合で、こちらも特定行政庁の都市計画で制限が定められています。

容積率は、面する道路の幅などが影響し、実際の住まいの広さに関わってきます。

サカ工住宅的・快適生活 第四回



↑今も色あせない、日本のシンボル『東京タワー』
トラス構造で建てられ、当時建てられた塔では一番高い建物でした。

どちらの基準も、土地ごとに定められた基準値を超えた建物は建てる事が出来ません。

面積の話は似た言葉が並び、わかりにくいところが多く頭を抱えたりします。

ただ、家を建てるだけならば、そこまで詳しく知る必要もないかも知れません。気になれば、建築業者や不動産屋に確認するとすぐに調べてもらえることでしょう。

ちよつとだけ気にかけておくと、建築予定の土地にどれぐらいの広さの家が建つか、知ることが出来ます。それを知ることとどんな家を建てようかと、計画が楽しくなるかもしれません。

わからないところはどんどん建築業者に聞いてください。

今回は今までの勉強的な内容から変えて、家を建てる際に行う「地鎮祭」についてお話ししようと思っています。

= Writer's INFO =

創書工房サンチェ

ネームインポエム作家兼フリーライター。
主婦業・育児業の傍ら、隙をみては自分のやりたいことに没頭する自由人。

京築・筑豊地区を中心に各イベント等に
出店、即興でのネームインポエムを作成・販売。

全国オーダー販売対応。筆文字デザイン等にも対応可。

また飯塚市の社会人野球チーム「ブラッドモンキーズ」のライターとしてウェブ上にてコラムや動画も配信中。地元の行橋市では、子育てイベント mama☆wara【ママ笑】の実行委員や、婚活イベント【アオハル。】の主催も務める。



ネームインポエムのお問い合わせ

LINE@

お友だち登録は
コチラから



<http://www.facebook.com/kobosanche>
kobo-sanche-526@docomo.ne.jp
または左のLINE登録 QR コードから
お願いします。

一級建築士×大工

未来を約束する、
マイスター品質。

Only One Style の家づくり



サカ工住宅

〒820-0106 福岡県飯塚市赤坂 846-157



= 編集後記 =

「Saka-yell」 第四号も楽しんでいただけたでしょうか。

今号は「古と今、和と洋の融合」をテーマに古民家や昔の醤油蔵を現在に活かして店舗にされている飲食店を特集しました。お忙しい中、ご協力頂きましたことを大変感謝いたします。「故きを温(たず)ねて新しきを知る」正にそんな言葉が似合う素敵なお店ばかりでした。

次号はついに五号になります。次号も皆様の興味を引く物になればと思っていますのでよろしくお願い致します。

Saka-yell 第四号 平成 30 年 12 月 10 日発行 編集・発行 (有)サカ工住宅 〒820-0106 福岡県飯塚市赤坂 846-157

電話 0948-42-3047 Fax 0948-42-3080 HP <http://www.sakae-jutaku.com/>

印刷 株式会社グラフィック 〒612-8395 京都市伏見区下鳥羽東芹川町 33 HP <http://www.graphic.jp/>